シンポジウム「蓑毛大日堂の諸堂と仏像」1/21(土)開催

二王像（阿形）（平安時代作）

秦野市文化会館　小ホールにて

日時：1/21　午後１時開場　入場無料

(※) ご来場の際は新型コロナ対策の為、マスクの着用をお願いします

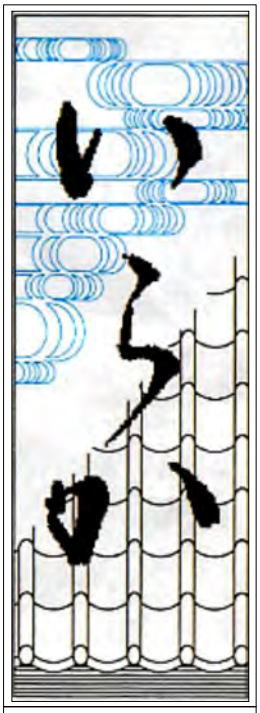
令和五年一月二十一日（土）午後一時半より四時十五分まで、クアーズテック秦野カルチャーホール（秦野市文化会館）小ホールにおいて、シンポジウム「蓑毛大日堂の諸堂と仏像－秦野市の文化・観光振興をめざして－」を開催いたします。

この企画は、秦野市文化振興基金活用事業助成金の交付を受けて行われるもので、大日堂の建造物と仏像の整備・修復事業について、秦野市内外の皆さんに知っていただき、ご協力をお願いするとともに、秦野市の「表丹沢」の魅力づくり構想」をふまえ、市全域の文化・観光振興を図ることを目的としています。

本会会員の横山玲子・東海大学教授の司会のもと、次のプログラムで行います。皆さまふるってご参加ください。

①開会挨拶（蓑毛山宝蓮寺住職・東島礼美）
②来賓挨拶
③「大日堂の諸堂・諸仏が現代に問いかけるもの」（本会理事長・松本亮三）
④「大日堂の二王像」（東京国立博物館学芸企画部長・浅見龍介）
⑤「大日堂に見る登録有形文化財保全の重要性－ヘリテージマネージャーの視点から－」（㈱ルナパーク代表・内田美知留）
⑥「地域の観光振興における文化資源の価値について」（じゃらんリサーチセンター長・沢登次彦）
⑦質疑応答と討議
⑧閉会挨拶（本会副理事長・水野功）

パネリストと司会の略歴及び発表要旨は裏面に掲載



-令和５年１月号-
――編集・発行――
ＮＰＯ法人
はだの大日堂保存会
広報啓発事業部
編集室/秦野市蓑毛674
-TEL/0463-81-3528-

[No. 21]

今期の活動と展望

本会がＮＰＯ法人に改組してから、早や一年が過ぎました。昨年は、二王像・仁王門の修復と大日堂・地蔵堂の部分的修繕に向けて、皆さまからの寄付金による自己資金の調達が進み、各種補助金・助成金の申請を行うことができました。国や県、市からの補助金が交付されれば、四月以降に修復事業を始めることになります。それに加え、今後とも環境の整備に注力し、各種行事も盛大に行っていきたいと思っております。

二王像の足元

寄付金の優遇税制が適用される認定ＮＰＯ法人の申請は、神奈川県の規定では二年間の業績審査が必要とのことで、さらに一年間待つこととなりました。皆さまのご協力を得て、大日堂の文化財保全活動をさらに進め、実績を積んでいく所存でおります。

三月には総会を開催し、詳しくご報告をいたします。追ってご案内を差し上げますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

寄付のお願い

大日堂の修復の為に、皆様からのご協力をお願いします。

お陰様で昨年度(12/20迄)は、修復基金として、1,677,252円を積み立てる事が出来き、合計で、3,829,128円（一部、修復事業に使用済）になりました。これも皆様の温かいご支援とご理解のお陰です。ありがとうございました。

修復資金のご協力は、下記へお振込み下さい。お願いします。

＜横浜銀行＞
【支店名】秦野支店【店番号】６６１
【預金種目】普通預金
【口座番号】６２３０５６０
【口座名義】特定非営利活動法人
はだの大日堂保存会

≪大日堂≫　これからの特別・一般公開予定

１月 １日：元旦公開
9:00～15:00
１月 ８日：振替月例一般公開
9:00～15:00
２月 ５日：月例一般公開
9:00～15:00
３月 ５日：月例一般公開
9:00～15:00
４月 ２日：月例一般公開
9:00～15:00
５月 ７日：月例一般公開
9:00～15:00
６月 ４日：月例一般公開
9:00～15:00
７月 ２日：月例一般公開
9:00～15:00

秋の特別公開、賑わい戻る

新型コロナの影響で、一昨年は開催出来なかった秋の特別公開でしたが、昨年は開催する事が出来ました。十月三日から十一月三日の五日間の間で、約五百名の方にご参拝頂き、例年の賑わいが戻った事を嬉しく思いました。また多くの方から、修復の為のご寄付（四十四名の方から、合計七十一万七千円）を頂きました。ありがとうございました。

ところで、この特別公開に合せて、はだの大日堂保存会の「Instagram」を始めました。ご投稿、お待ちしています。

シンポジウム「蓑毛大日堂の諸堂と仏像」1/21(土)開催

パネリスト紹介

本会理事長・松本亮三

【略歴】
１９５１年島根県生まれ。
１９７７年東京大学大学院社会学研究科博士課程中退、東京大学助手。
１９８２年東海大学に奉職。同大学学長室長、図書館長、観光学部長、日本私立大学連盟教育研究委員長等を歴任。
２０１８年東海大学退職。
　現在、東海大学名誉教授、比較文明学会理事、川崎産業観光振興協議会会長。編著書に『時間と空間の文明学』『天皇と日本文明』など。

【発表要旨】
「大日堂の諸堂・諸仏が現代に問いかけるもの」
　蓑毛大日堂は、現在、四棟の建物から構成され、五智如来坐像、聖観音立像、二王立像などの平安時代に制作された仏像を祀っています。大日堂を管理する宝蓮寺の縁起には、大日堂は奈良時代の天平十四（七四二）年に創建されたと伝えており、大山と並んで古くから仏教文化の中心のひとつであったと思われます。現在、大日堂の堂宇も仏像群も損傷が著しく、このままでは崩壊を免れません。適切に修復保全し、大日堂をめぐる人々の思いや芸術を後世に伝えることが私たちの責務だと言えます。

東京国立博物館学芸企画部長 浅見龍介 氏

【略歴】
１９６４年東京生まれ。
１９８７年鎌倉市教育委員会鎌倉国宝館に就職。
１９９４年東京国立博物館に移り、２００３年特別展「鎌倉―禅の源流」を担当。
２０１４年京都国立博物館に異動。
２０１６年東京国立博物館に異動し、２０１９年に特別展「運慶」を担当。
　現在、東京国立博物館学芸企画部長。著書に、『禅宗の彫刻』至文堂、『運慶への招待』朝日新聞出版など。

【発表要旨】
「大日堂の二王像」
　二王（仁王）は金剛力士とも呼ばれます。上半身は裸で、筋骨隆々とした姿が特徴です。お寺の門の左右に置かれ、邪悪なものの侵入を防ぐ守護神です。
　大日堂の二王像は、表面の赤い彩色をはじめ、修理が重ねられたようですが、制作は平安時代と見られます。
　日本には数多くの二王像がありますが、平安時代の作は少なく大変貴重な像です。
　ここでは、平安時代、鎌倉時代の作例と写真で見比べてその古さを確認します。

（株）ルナパーク代表 内田美知留 氏

【略歴】
１９５７年和歌山県生まれ。玉川大学農学部及び桑沢デザイン研究所卒業後、設計事務所、都市計画事務所等を経て、１９９１年横浜市で独立。１９９７年一級建築士事務所（株）ルナパークとし現在に至る。
　ヘリテージマネージャーとして歴史的建造物の保存・活用、伝統技術継承、環境保護、木材等自然材料利用等に注力。

【発表要旨】
「大日堂に見る登録有形文化財保全の重要性―ヘリテージマネージャーの視点から―」
　大日堂、仁王門、不動堂、地蔵堂は、十七世紀末～一九世紀前半に建てられた国の登録有形文化財で市の重要文化財を含む木像を安置しており、全国民にとってかけがえのない貴重な存在です。木造建築は手をかけなければいずれ土などの自然に還ってしまいますが、手をかければ五百年以上保つこともできます。近年価値観や社会状況が大きく変化した日本ですが、このような時だからこそ、私達ヘリテージマネージャーらが本質を見定め、保存・活用・維持管理・承継など皆様の手助けとなることが重要だと思われます。

じゃらんリサーチセンター長 沢登次彦 氏

【略歴】
１９９３年明治大学農学部農学科卒業。
１９９３年株式会社リクルート入社。教育機関広報事業部を経て、２００３年に国内旅行事業部勤務。関東近郊観光地のエリアプロデューサーとして地域活性に携わる。
２００７年よりじゃらんリサーチセンター長、とーりまかし編集長。
　観光庁を始め中央省庁や地方自治体の各種審議会委員、講演・研修等を務める。

【発表要旨】
「地域の観光振興における文化資源の価値について」
　国内観光も活性化しています。また、訪日外国人入国の制限も撤廃され、いよいよ地域観光の回復が始まります。そして、それは力強い成長となるはずです。
　キーとなるテーマは、「地域固有の文化的価値（ここにしかない価値）」を、どう見つけ、育て、伝えていくか、だと思います。カスタマーデータ（定量的に）とカスタマーである外国人の声（定性的に）をもとに、皆様に、お伝えさせていただきます。
　どうぞよろしくお願い申し上げます。

司会 横山玲子教授 略歴

１９６３年東京生まれ。文学修士。東海大学大学院文学研究科文明研究専攻博士課程後期を単位取得退学。専門分野は、文明学、文化人類学、新大陸先史学。
　現在、東海大学観光学部観光学科教授。人間中心主義的な見方を、人間は全体の一部にすぎないという見方に変えるにはどうしたらよいのかと考察中。著書（共著）に、『時間と支配』、『文明の未来』など。

横山玲子教授

ご案内

☆はだの大日堂保存会　ホームページ
　--> http://www.minoge-bunka.org
　--> 検索サイトから
　　「はだの大日堂保存会」で検索
☆お問い合わせ　メールアドレス
　--> info@minoge-bunka.org
☆お問い合わせ　電話番号
　--> 0463(81)3528
　（事務局　宝蓮寺内）